

当総務委員会に付託された案件については、9月7日、12日及び19日、いずれも午前9時30分から、委員会室において、委員全員出席のもと、慎重審査しましたので、その経過と結果をご報告申し上げます。

認定第1号中、当委員会に分割付託された案件については、補足説明の後、質疑に入り、主な質疑として、

初めに、一般会計について申し上げます。

平成29年度に総務委員会が所管する事業で、著しく成果があったものと、あまり上手くいかなかったこと、またそこから何を学んだか。とに対し、

大きな柱として掲げました防災・減災に関しては、体育館などを始め公共施設の耐震改修工事がかなり進捗ができたことが大きな成果です。また、収納対策もここ数年充実をしてきた結果、現年分について県下で一位を維持できたことで市民の皆さんの税負担の公平・公正性が確保できました。上手くいかなかった点として半田病院の建設問題が結果として新病院の開設時期が遅れることとなりましたが、一日でも早い開院の努力をしていく必要があると思います。新しい病院を早く造ることの重要性を、もっと熱く市民の皆さんに説明すべきだった。ということが反省事項です。とのこと。

公務災害、労働災害について平成29年度の実績が21件となっているが、災害の程度の状況はどのようになっているか。とに対し、

災害の程度はいずれも軽度です。発生防止に向け対策はいろいろとっていますが、保育園や幼稚園における子どもとの関わりの中で発生する予期せぬ事故など、防ぐことが難しいケースもあります。今後も災害事例を示しながらリスク軽減に努めていきます。とのこと。

経常収支比率について、2年連続で悪くなっているが、長期的に90%を超えていくような予測になっているのか。平成29年度は予算段階で経常収支比率を出していたのか。とに対し、

今後、人件費や扶助費等が上がってくれば、100に近くなってきます、状況によっては90%になる可能性はあります。予算の段階では経常収支比率は出していません。とのこと。

第6次半田市総合計画の冊子について、重要なものであるが、新入職員を含めた職員全員に配っているのか、幹部クラスだけに配っているのか、どこまで配付をしているのか。これを基に職員研修などはしているのか。とに対し

し、

職員一人ひとりに配付するところまではしていません。管理職と課に一冊配付しています。研修は特に行っていませんが、3か年実施計画や事務事業評価は、総合計画に紐づいていますので、策定時等には総合計画を参照して事業を組み立てるようにしています。今後は庁内ネットワークを利用した電子的な配付等を考えていきます。とのこと。

市報について、監査委員の意見書では元々全戸配付という基本のルールがあるのだから全員にわたるよう求められているが、自治区に対し全員に配るようお約束いただくか、未加入世帯には配らなくていいと決めるのか、どう考えているか。とに対し、

自治区には全戸配付をお願いしています。それを受け止めて未加入世帯にも配っていただいている自治区と、それが出来ずに公民館や区民館等に置いている自治区がありますので、区長会で改めて議論していきます。とのこと。

仕事改善活動について、平成28年度の提案を平成29年度に行ったと思うがどういう効果があったか。優秀なもの一つだけを採用するルールではもったいないと思うがどうか。とに対し、

これまで、どこの課がどんな備品を持っているのかわからなかったのが、それを庁内ネットワーク上で管理することによって、見える化により業務の効率化が図られました。提案内容には順位付けをして、1位の提案は採用改善案として翌年度に事業化できるようにしていますが、その他の提案についても全て、庁内に周知を図り、業務に活かすよう促しています。とのこと。

消防施設整備事業について、民有地に設置されている防火水槽の借地料や固定資産税の取り扱いについてのルールはあるのか。とに対し、

取り扱いが不統一なものが確認されており、土地対策会議において整理にとりかかっています。防火水槽に限っては、消火栓の設置も進んできていますので、本当に必要な水利なのかということもまず調べたうえで、今後の方向性を定めていきます。とのことでした。

次に、半田市駐車場事業特別会計歳入歳出決算について申し上げます。

クラシティ駐車場について、監査委員からの経営形態を含めた抜本的な見直しの必要性を感じるという指摘に対し、具体的な改善策を考える必要があると思うがどうか。とに対し、

関係する団体と改善に向けて、取り組んでまいります。とのことでした。

以上のような質疑を行った後、討論を省略し、一般会計と2件の特別会計

を採決しました。

まず、平成29年度半田市一般会計の歳入歳出決算のうち、当委員会に分割付託された案件については、挙手により採決した結果、賛成多数をもって認定することに決定しました。

次に、平成29年度半田市駐車場事業特別会計歳入歳出決算については、採決した結果、委員全員をもって認定することに決定しました。

次に、平成29年度半田市モーターボート競走事業特別会計歳入歳出決算については、採決した結果、委員全員をもって認定することに決定しました。

次に、認定第2号について、補足説明の後、質疑に入り、主な質疑として、

9年ぶり赤字決算で大変残念に思う。人件費、材料費等の費用増、いろいろな要因があると思うが、1億2千600万円の赤字に対し市長の考えを伺う。とに対し、

平成29年度は県内病院でこれまで黒字だった病院が赤字になるなど、この公立病院も厳しい経営状況でありました。なおかつ、診療報酬を多く稼げる診療科の医師が手薄になったということもありました。今後は名古屋大学の医局とのパイプを更に太くして、必要な診療科に対し、経験豊かな医師を派遣していただけるよう努力します。とのこと。

新規で入った看護師の離職率の高さが目立ったが、偶然のことなのか、何か違う状況が起きているのか。看護師の退職理由のうち処遇に不満があるというのは、最初に取り決めたことと実際に働いていた中身が違うということか。平成29年度中に新たな対策など見つけたか。とに対し、

新規採用者の離職率は良いときは3.2%、良くないときは13.5%です。平成29年度は12.5%、4名の離職のうち2名がメンタル面によるもの、2名が看護師以外への転職が理由です。指導方法に問題があったかまでの考察はできていません。処遇への不満とは思った以上に勤務がきついといったことも含まれると思います。対策としては、個人面接を多く行い、その内容を勘案して人事異動を積極的に実施しました。とのこと。

看護助手、メディカルアシスタントの確保について、それぞれ75名、33名の目標に両方とも届いていないが、目標の立て方をどのように考えているか。とに対し、

目標値は診療報酬加算を基準としており、看護助手75名に关しましては、看護補助体制加算の最大値、メディカルアシスタントについては医師事務作

業補助体制加算の最大値33名としています。定数に届いていない理由としては、資格を全く必要としていないので、医学用語の知識が全くない方が突然、病院の中に入り、合わないということで退職に至ったりしたことなどによるものです。とのこと。

救命救急センターの利用の適正化について、医師会の夜間・休日診療所の併設を平成29年7月までに結論を出すとなっているが、どういう議論になったのか。とに対し、

その目標は新病院を職員駐車場に建設する方針のときのもので、新病院の中に定点化の拠点を整備すれば、利便性が高まるのではないかという議論はありましたが、医師会としての統一した見解には至りませんでした。その後、半田病院の建設場所の変更に伴い、現実的でなくなり、中断となりました。とのこと。

新病院建設まで7年間という期間の中で、近いうちに地震や災害が起きる可能性があるが、水や電気の供給ができない場合の対応はどのようにする考えか。とに対し、

災害拠点病院として、水、電気等のエネルギーが断たれたときに対応する設備は整っています。ただ、病院として最重要な手術室、検査、放射線といった中枢機能が入っている場所が耐震補強はできないという状況で、そこに対しては手の打ちようがない状態であります。水、電気等が確保できたとしても病院としては機能を失う恐れがありますので、早く病院を建てる以外の手立てはありません。とのことでした。

その後、討論を省略し、挙手により採決した結果、賛成多数をもって認定することに決定しました。

以上、ご報告申し上げます。